滋賀県草津市の琵琶湖のそばで、容器や包装に使い捨てプラスチック製品を一切使わない「完全脱プラごみ」を掲げたカフェ「ＲＥＥＤ（リード）」がオープンした。新型コロナウイルス感染拡大もあり、客の大半はテークアウト。店は「環境保全を考える場にしたい。リピーターを増やし、運営面でもコスト問題を克服できると示したい」と意気込んでいる。

「完全脱プラごみ」カフェ開店

琵琶湖畔で考えるエコ

草津市の「REED」 粘り強く「社会貢献を」

上店で用意される紙製のストローやふたなど
下カフェ「REED」で店長を務める小佐秀和さん＝滋賀県草津市

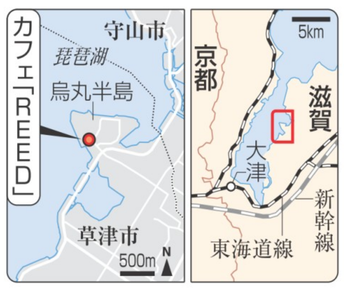
店長の小佐秀和さん(32)が木のトレーに載せて差し出したのは、紙コップに入れた持ち帰り用ホットコーヒー。レジのそばに用意してあるストローやふた、スプーンなどは全て、プラスチック製ではなく紙製か木製だ。「コーヒーフレッシュやガムシロップも、容器に入ったものは配らない。金属器で用意しており、店内で注いでもらいます」

店を経営する丸本篤さん(47)は元々、京都市内でインターネット関連事業を展開していた。草津市下物町の烏丸半島で、コロナ禍のため営業終了した空き店舗を活用し、昨年12月にこの店を開いた。琵琶湖周辺に多く自生する「葦」を意味する英語を、店名にした。

「事業が軌道に乗った時から、何か社会貢献したいと思っていた」と、環境に優しい店舗運営を打ち出した。ただ「完全脱プラ」を徹底すると、持ち帰り容器などにかかるコストが、プラスチック製を使う場合と比べて5倍以上になる計算だった。そのため、会員制交流サイト（SNS）上で話題になっているスイーツをメニューに取り入れながら集客力を高め、コストを吸収しようとしている。

プラスチック循環利用協会（東京）の統計によると、2019年に日本で排出されたプラごみは約850万トンだった。

「コロナ禍が長引き、テークアウト需要がさらに高まれば、容器包装ごみが湖や川に捨てられる危険は高まる。紙や木と異なり自然界に長く残ってしまうプラごみなら、環境に大打撃だ」。丸本さんと小佐さんは根強く生える葦を見習い、粘り強く問題提起し続ける使命を感じている。



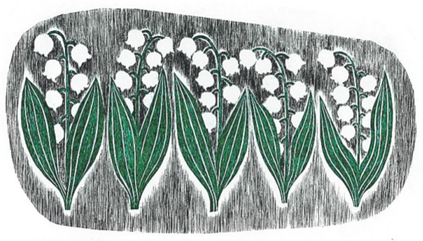
日々を彩る二十四節気

広田千悦子さん「花月暦」出版

自宅やその近くで過ごす時間が増えると、身の回りのささやかな変化に心が動かされる。少し暖かくなったことや、街路樹の花が咲いたことも、その一つ。日本の行事や歳時記を研究する広田千悦子さんが、花や樹木、果実の銅版画や写真と共に、二十四節気の由来や楽しみ方をつづった本「花月暦」を出版した。

例えば芒種。のぎと呼ばれる突起のある、イネ科の植物の種をまく６月６日ごろを意味する。田植えを終えた田んぼの写真や、スズランの銅版画に、初夏の訪れが待ち遠しくなる。

絵は水上多摩江さん、写真は広田行正さんが手掛けた。パイ　インターナショナル刊、1980円。



「花月暦」より。水上多摩江「スズラン」

六甲大学

ROKKO-SAN DAIGAKU

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。　（毎月第４火曜日に掲載します）

根岸真理が案内　山の四季便り

ねぎし・まり　アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう！」など。

六甲最高峰に快適トイレ

雨水活用、植生を再現　大屋根の下にはベンチ

多くのハイカーが通る六甲最高峰直下の広場に、新しいトイレ兼休憩所ができている。六甲全山縦走路と、芦屋川から有馬温泉を結ぶ「魚屋道」の交差点。以前のトイレは古い上、冬には水が凍結して使用できなくなることもあり、改善を求める声が強かった。

昨年秋に完成、一般供用が始まった新しい施設は、夏の強い日差しや、雨も避けられる大屋根が特徴。広々とした屋根の下には、ゆったりくつろげるベンチもある。六甲山の木材も一部に使用されているそうで、木の香りがすがすがしい。トイレの個室内にはパネルヒーターが設置され、真冬に利用したときには、あまりの快適さに感動してしまった。

設計したのは、神戸市東灘区に事務所を構える「ｏｆａ」。六甲の山並みをイメージさせるデザインで、屋根が集めた雨水を活用するなど、山上の環境に寄り添った施設となっている。

「元々砂利敷きの殺風景な場所だったんですが、六甲山の植生を再現して、自然環境と人の営みが共存する風景を作りたいと考えました」と設計担当の深川礼子さん。

兵庫県立人と自然の博物館の協力を得て、六甲山地で採集した植物の種を育成。着工前に敷地内に自生していたススキを、神戸市森林整備事務所が養生し、完成後に戻すという取り組みも行った。

「休憩しながら、自然の心地よさに触れて、いずれはクサハラ（草原）の育成に参加していただけるような機会も作っていけたら」。今後、植生の状態を守っていくために、ハイカーを巻き込んだイベントなどの構想もあるとか。

上下水道がない上に標高が高く、気象条件が厳しい中、施設を快適に維持していくには、さまざまな工夫と継続的な管理が必要だ。特に草原性の植物は、人の手入れが欠かせない。利用者であるハイカーが関われる機会があるのなら、ぜひ協力していきたいと思っている。

山並みにマッチしたデザイン。広場の周囲には「ブナを植える会」が育てた六甲ブナ、六甲山の草原性植物も植えられている（撮影・株式会社ｏｆａ）

建物やベンチには木材が使われ、ゆったりくつろげる

広場の奥から最高峰へ続く新設の遊歩道。上部から北東側に眺望が開け、これまでと違う景色が見られる

六甲山の最高峰。このすぐ下に最新式のトイレができた

かれんな「ヒマラヤの青いケシ」

六甲高山植物園、来月15日から展示会

5月半ばに見ごろを迎えるヒマラヤの青いケシ

六甲高山植物園は５月15日～６月20日、園内のロックガーデンに咲く秘境の花「ヒマラヤの青いケシ」を紹介する展示会を開く。

栽培が難しく、屋外での植栽展示は同園のものが西日本最大。展示では、この花の撮影や調査研究の第一人者・吉田外司さんの写真、生態の解説パネルなどを並べる。ヒマラヤの青いケシを国花とするブータンや青いケシに関連するグッズ販売もある。

午前10時～午後５時。無料（入園料は一般700円、４歳～小学生350円）。六甲高山植物園☎078・891・1247

六甲大学
ROKKO-SAN DAIGAKU
六甲山大学・情報凝縮サイト
653daigaku.com
わたしたちは 六甲大学 の活動を応援しています
協賛企業
ひとのときを、想う。JT
Daiwa House
想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
順不同
【実行委員会】六甲摩耶観光推進協議会／摩耶山観光文化協会／灘百選の会／神戸観光局　神戸新聞社　【事務局】神戸新聞地域創造内　E-MAIL:info-653@kobe-np.co.jp